

＊「資料2 基本計画重点プロジェクトの目標と重点事業の実施状況」参照

【プログラム1 1-1「子どもを産み育てやすいまちづくり」関係】

① p2「こんにちは赤ちゃん事業」（乳児のいる世帯への全戸訪問）

とても評価できる内容だと思う。

実際、出産した母親達から「助かる」との声も聞く。

また、虐待が疑われそうな家庭の早期発見にもつながると思う。

一方、外国籍の母親などコミュニケーションに課題がありご苦労も想像される。

外国籍の母親の場合、健康診断の通知も意思の疎通がはかられず、検診に出かけない母親も見受けられ、母国語でのお手紙を作成しているようである。

外国籍の方々との共生はとても重要である。同時に、共生が進むに従い行政の負担もしのばれる。

② p3「保育所定員拡充事業」

待機児童の解消に努めて頂きありがたいと思う。

一方、定員を増やすだけではなく、それぞれの保護者からきめ細かにニーズを聞くことにより「保育所」だけではない「子どもを預ける選択肢」が見つかる場合もあるかもしれない。

フルタイムで働く保護者にとっては「保育所」が一番必要とされる保育施設である。

他方、パートタイムで働く保護者にとっては「保育所以外」の選択肢もあることを理解し、解決策を見つけれれば「待機児童」は減るかもしれない。

また、ファミリー・サポート・センターの保育「よろしく会員」「おまかせ会員」など各団体での取り組みの情報も合わせて紹介し、保育を必要としている子育て世代に提供することができたら、保育所の増員を待たずして待機児童を減らすことができるかもしれない。

その意味では、横浜市の取り組みの「保育コンシェルジュ」※のようなものが求められるかもしれない。

※保育を希望する保護者の方の相談に応じ、個別のニーズや状況に最も合った保育資源や保育サービスの情報提供を行う保育専門相談員を全区に1名ずつ配置

【プログラム１ １－２「人間性豊かな子どもの育成」関係】

③ p 6「学力向上事業」～小学校放課後学習ルーム・サポートティーチャー

人気のようである。

現在は限られた学校で行われているようだが、負担はあるかと思うが全校で進めることができると、学力向上のみならず不登校対策（勉強が理解できないということも中学生になつての不登校の理由の一つになるので）にもつながると思う。

小学校で勉強の習慣が確立されると中学校での学習に大きく影響すると思う。

※平成 24 年度 小学校 41 校実施・中学校 2 校試行、平成 25 年度より中学校にも拡充

④ p 6「子ども読書活動推進事業」

ブックスタートも母親達に評価されている。

小学校でボランティアが、朝、「読み聞かせ」を開催している。（ほぼ全校で実施されていると思う。）実際、ボランティアに 8 年かかわり、子ども達の聞く姿勢、理解力に影響を与えていると思う。

子どもが本に興味を持ち、読書を身近に感じる手段きっかけになっていると思う。

（ボランティアに対しての養成講座もありがたい）

⑤ p 7「国際コミュニケーション能力育成事業」

横須賀の子ども達は「外国人」に対してアレルギーがなくとても身近に感じる事ができる理由の一つと思う。

もちろん、同じ地域に外国籍の方々と共に暮らすことも理由の一つだろう。

それにも増して、学校での ALT とのふれあいが他市都府県よりも多いことも、横須賀の子どもが外国人とのコミュニケーションを普通のものと考えている理由にあげられると思う。

【プログラム2 2－1「誰もが活躍できるまちづくり」関係】

⑥ p10「バリアフリー事業」

歩道の切り下げによるバリアフリーは、高齢者の転倒を防ぐのみならず、幼児やベビーカーの親子にとっても優しい環境になる。